



日本組織培養学会

会員通信

第126号

平成23年7月1日

発行者

* 坂野 俊宏 (株式会社マンダム)
伊藤 丈洋 (株式会社細胞科学研究所)

* 責任者連絡先

〒540-8530
大阪市中央区十二軒町5-12
株式会社マンダム 中央研究所
研究管理室
TEL : 06-6767-5024

目次

1. 第84回大会報告	2
1) 大会を終えて 第84回大会のご報告と御礼	2
2) 奨励賞審査結果	2
3) 奨励賞受賞者感想文	3
2. 平成23年度 第1回 幹事会報告	5
1) 庶務報告	5
2) 会計報告	5
3) 審議事項 (抜粋)	8
4) 第85回大会概要	9
3. 各種委員会報告	9
1) 教育研究システム委員会報告	9
2) テクニカルアーカイブ委員会報告	11
3) 情報企画委員会報告	11

1. 第84回大会報告

1) 大会を終えて 第84回大会のご報告と御礼

第84回大会 大会長 絵野沢 伸

日本組織培養学会第84回大会は先週5月27日(金)、28日(土)に国立成育医療研究センターにて開催され、無事終了いたしました。ご参加、ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

かいつまんで開催結果をご報告いたします。

演題数はシンポジウム等を含め全44、参加者は概数で150名前後でした。44演題すべてが選り抜きのご研究で、しかも各先生方がきわめて丁寧なご発表をしてくださいました。また、非会員参加者が33名もいらしたことは、今後の本学会の発展が予見できるようでたいへん喜ばしく思っております。

参加者数のピークは27日午後の動物実験代替法学会との合同シンポジウムから特別講演にかけてであったように思われます。今後も両学会の密接な交流が期待されます。また2日目午前中の細胞培養指導士講習会(トライアル)にも指導士だけでなく50人前後がお集りくださいました。厳密な方法論の確立と伝達を信条とする本学会の方針の正しさが裏付けられたものと思います。それに続くSession in Englishにおいては極めて質の高い講演と活発な議論がなされました。

市民公開シンポジウム「病気に立ち向かう一市民と研究者の理解のもとに一」には20~30名程度の一般の方が加わってくださり、深い議論ができたと思います。しかしながら、このテーマは2時間程度で語り尽くせるものではなく、いろいろな場を使い、継続した取り組みが必要と感じました。

大会は終了しましたが、これから合同シンポジウムおよび公開シンポジウムを中心に記録集の作成を計画しております。少々先のことになるとと思いますが、出来上がりましたら学会ホームページなどを通じ、ご連絡いたします。

最後になりましたが、本大会にご参加、ご協力いただきました皆さまに再度感謝するとともに、皆さまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

2) 奨励賞審査結果

奨励賞・学術担当幹事 佐藤 元信

日本組織培養学会奨励賞は、将来性ある若手研究者の研究を奨励し、本学会の活性化を図る目的で設立されたものです。平成23年度の奨励賞対象演題は第84回学術大会にて口頭ならびにポスターにて発表され、審査員により公平に審査・採点されました。

対象となりました3演題、「Molecular biology of the role of CARF in aging and cancer: basic and interventional approaches」を発表された、筑波大学大学院 生命環境科学研究科のシングルマニイさん、「RHAMMの細胞増殖および分化の関与の検討」を発表された、広島大学大学院 医歯薬学総合研究科の波多野 寛子さん、「細胞非接着性表面処理による3次元培養基板を用いたヒト初代肝細胞機能評価」を発表された、株式会社トランスパレントの高橋 由里子さんの3名全員が基準を満たしておりましたので、受賞者に選出されました。受賞者には学術大会2日目に開催された平成23年度日本組織培養学会総会において、賞

状ならびに副賞が鈴木会長より授与されました。

シング ルマニイさんは、CARF (Collaborator of ARF) が、その発現レベルの変動により細胞の老化による増殖停止にも、がん化にも関わることを示しました。波多野さんは、骨形成線維腫の発症において、RHAMM (receptor for hyaluronan-mediated motility) が重要な役割を担っていることを示しました。高橋さんは、特殊な三次元培養基板を用いた初代肝細胞の培養法が優れた肝機能維持効果をもつことを示しました。いずれの演題も、細胞培養・操作技術を駆使してすばらしい成果をあげられました。各受賞者におかれましては、この度の受賞を契機に今後進への範となるようさらに研鑽をつまれ、本学会におけるさらなるご活躍を期待したいと思います。

3) 奨励賞受賞者感想文

シング ルマニイ

The YIA presentation in the 84th Annual meeting of Japan Tissue Culture Association was a great opportunity for me and I am very much honored to receive the “Young Investigator’s Award”. This award is an encouragement for me to work harder and contribute to the field of cancer biology and therapeutics using cell/tissue culture technologies. Guided by Dr. Renu Wadhwa and Dr. Sunil Kaul for a high level research in cancer and aging field using cultured cells as a model, I feel myself highly motivated and set to perform. I feel that cell culture model is an effective approach to answer many biological questions and work on the mechanisms. Participation in this annual meeting was very interactive and good platform for me to interact and share research experiences with seniors and experts. Moreover, English Session was a praise worthy effort that gave chance to foreign researchers in Japan to come forward and share their interests and contribute.

I would also like to take this opportunity to extend my gratitude to the organizers and sponsors of the “84th Annual Meeting of Japan Tissue Culture Association”, whose efforts made the meeting a successful event. I am looking forward to attend the next year’s meeting as well.

波多野 寛子

この度は第 84 回日本組織培養学会奨励賞を頂き、またこのような報告の機会を与えて頂きまして、関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

本大会は、「病気に立ち向かう」というテーマで開催されましたが、どれも興味深く拝聴させて頂き、まさに一つ一つの研究が、色々な方からのご協力の上に成り立っていることを再認識させられました。加えて、将来の治療の一助となるよう研究に邁進していこうと決意を新たに致しました。

今回の発表は「RHAMM の細胞増殖および分化への関与の検討」という演題で発表させて頂きました。顎顔面に発生する腫瘍は稀な疾患が多く、標本の蓄積という観点からも解明が進んでいないのが現状です。顎骨の骨原性腫瘍である骨形成線維腫を取り上げ、正常な細胞増殖と分化機構が破綻しているその病態に着目し、これに過剰発現遺伝子 RHAMM が重要な役割を果たしていることを明らかにしました。

発表後には、諸先生方から多くのご質問・ご意見を頂き、研究に行き詰りを覚えることの多い浅学非才の身の私には、第一線でご活躍される諸先生方にご助言を頂戴できることは、とても有り難く心から嬉しく、学会を非常に楽しく過ごさせて頂きました。

まだまだ未熟で、「病気に立ち向かう」研究をできる技術を持ち合わせていない自分に焦りを覚えますが、この組織培養という学問を今後も勉強させて頂く過程で、基礎と臨床・研究と治療を結ぶ研究ができればと思っております。研究に従事できることに感謝しつつ、私たちの研究成果が病態の制御・克服に少しでも寄与できることを願いながら、今後も日々取り組んで参りたいと思っています。

研究を続けるなかで、悩むことや辛いと思うこともあります。その度に、家族や先生方、出会った多くの方々に、助けられ励まされ、育てて頂いていると感謝してやみません。多くのご指導ご助言を賜りました鎌田伸之教授はじめ当研究室の皆様、また研究において常に多大なるご協力を頂いております同研究科創生医科学専攻先進医療開発科学講座口腔顎顔面病理病態学の先生方に心より感謝申し上げます。これからますます研究に励みたいと思いますので、今後とも皆様方にご教示頂きますよう、よろしくお願い致します。

高橋 由里子

先日行われた、日本組織培養学会第 84 回大会において発表させて頂き、奨励賞という大変栄誉ある賞を賜り、大変恐縮致しております。

この度の受賞は実験や報告につきましてご指導を頂きました国立成育医療研究センター研究所 絵野沢伸先生を始めとした多くの方々の多大なご助力が有ってこそその結果であると考えており、感謝致しております。

私は大学時代から生物には関わっておりましたが、主に微生物の研究をおこなっていたため、会社に入社するまで細胞培養は未経験でした。そのため、やりたいと思う実験系があってもいざ培養をするとその時点でささいな失敗してしまい試行錯誤しておりました。また、会社では化学合成をおこなっている方々が多かったために、実験に関する疑問も解決できないことが多く、悩んでいました。そのような環境を打開するため参加させていただいたのが、貴学会の細胞培養基盤技術講習会でした。講習会では私のような初心者でも一人で細胞培養ができるようになるためにプログラムが組まれており、配布していただいたテキストはいまだに活用させて頂いております。また、同時に学会長の鈴木崇彦先生を始め多くの細胞研究の第一線におられる方々とお話する機会があったことや、自身と同じような悩みをもっている研究者の方々と接する機会を与えていただいたことが励みとなり、今回の受賞に至ったと感じております。

最後に、多くのすばらしい発表の中、私の研究に興味を持って耳を傾けて下さった参加者の方々に心より感謝いたします。

また、本研究は、肝組織をご提供頂きましたドナー・ご家族の皆様のご理解とご協力を頂き実施させて頂きました。ここに深く謝意を表します。

2. 平成23年度 第1回 幹事会報告

1) 庶務報告

会員件数 (平成23年5月1日現在)

正会員	474	退会・逝去	779
学生会員	82	休会	8
賛助会員	20		
名誉会員	22		
寄贈会員	1		
小計	599	小計	787
総計	1,386		

平成22年度会員動向(件数)

種別	入会	退会
正会員	32	22
学生会員	26	9
賛助会員		3

2) 会計報告

平成22年度決算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

一般会計

【収入の部】

勘定科目	平成22年度予算額	平成22年度決算額	備考
前年度繰越金	506,428	506,428	
正会員会費	1,500,000	1,272,000	175名
学生会員会費	100,000	105,000	18名
賛助会員会費	500,000	330,000	5社
入会金	50,000	45,000	
機関誌関連収入	200,000	278,753	購読料, 別刷代等
講習会テキスト販売収益	100,000	144,000	
雑収入	100	257	普通預金利息等
単年度収入合計…①	2,450,100	2,175,010	
収入合計…②	2,956,528	2,681,438	(単位: 円)

【支出の部】

勘定科目	平成 22 年度予算額	平成 22 年度決算額	備 考
機関誌発行費	1,200,000	995,400	29 巻 1 号, 2・3・4 号
会員通信発行費	40,000	80,325	124 号, 125 号
学会業務委託費	800,000	796,945	郵送費, 管理費, 会費請求, J-STAGE アップロード費等
引当金(2 回目)	200,000	200,000	会員名簿作成費積立
第 84 回大会補助金	600,000	600,000	
研究教育システム委員会	300,000	154,797	
テクニカルアーカイブ委員会	300,000	0	
幹事会議費	150,000	8,640	貸会議室キャンセル料
雑費	30,000	3,360	振込み手数料等
単年度支出合計…③	3,620,000	2,839,467	
単年度収支(=①-③)	△ 1,169,900	△ 664,457	
次年度繰越金…④(=②-③)	△ 663,472	△ 158,029	
合計(③+④=②)	2,956,528	2,681,438	(単位: 円)

特別会計

【収入の部】

勘定科目	平成 22 年度予算額	平成 22 年度決算額	備 考
前年度繰越金	7,123,505	7,123,505	
寄付金収入	100,000	103,311	機関誌以外の出版物収益寄付等
第 83 回大会収益	0	400,000	第 83 回大会収益
雑収入	1,000	1,717	普通預金利息等
単年度収入合計…①	101,000	505,028	
収入合計…②	7,224,505	7,628,533	(単位: 円)

【支出の部】

勘定科目	平成 22 年度予算額	平成 22 年度決算額	備 考
学会奨励賞	300,000	192,840	奨励賞受賞者 3 名
功労賞関連経費	100,000	100,000	功労賞受賞者 2 名
名誉会員推戴費	40,000	37,800	名誉会員表彰等
雑費	30,000	5,355	振込み手数料等
単年度支出合計…③	470,000	335,995	
単年度収支(=①-③)	△ 369,000	169,033	
次年度繰越金…④(=②-③)	6,754,505	7,292,538	
合計(③+④=②)	7,224,505	7,628,533	(単位: 円)

平成 22 年度の決算書類は、上田 忠佳 会員 (DS ファーマバイオメディカル株式会社) と片岡 健 会員 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科細胞生物学分野) に監査をお願いし、厳正な監査の結果、会計は適切に処理されていることが確認されました。

本決算書は、第 84 回大会総会において承認されました。

平成 23 年度予算案 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

一般会計

【収入の部】

勘定科目	平成 23 年度予算額	備 考
前年度繰越金	△ 158,029	
正会員会費	1,500,000	
学生会員会費	100,000	
賛助会員会費	500,000	
入会金	50,000	
機関誌関連収入	200,000	購読料, 別刷代等
講習会テキスト販売収益	100,000	
繰入金	1,000,000	特別会計からの繰入れ
雑収入	100	普通預金利息等
単年度収入合計…①	3,450,100	
収入合計…②	3,292,071	(単位: 円)

【支出の部】

勘定科目	平成 23 年度予算額	備 考
機関誌発行費	1,200,000	30 巻
会員通信発行費	40,000	126 号, 127 号
学会業務委託費	800,000	郵送費, 管理費, 会費請求, J-STAGE アップロード費等
引当金(3 回目)	200,000	会員名簿作成費積立
第 85 回大会補助金	600,000	
研究教育システム委員会	200,000	
テクニカルアーカイブ委員会	200,000	
情報企画委員会	200,000	
幹事会議費	150,000	
雑費	30,000	振込み手数料等
単年度支出合計…③	3,620,000	
単年度収支(=①-③)	△ 169,900	
次年度繰越金…④(=②-③)	△ 327,929	
合計(③+④=②)	3,292,071	(単位: 円)

特別会計

【収入の部】

勘定科目	平成 23 年度予算額	備 考
前年度繰越金	7,292,538	
寄付金収入	100,000	機関誌以外の出版物収益寄付等
雑収入	1,000	普通預金利息等
単年度収入合計…①	101,000	
収入合計…②	7,393,538	(単位:円)

【支出の部】

勘定科目	平成 23 年度予算額	備 考
学会奨励賞	300,000	奨励賞副賞
移算金	1,000,000	一般会計へ移算
機関誌オンライン化	2,367,225	TCRC バックナンバー(7~25 巻) J-STAGE アップロード費
雑費	3,000	振込み手数料等
単年度支出合計…③	3,670,225	
単年度収支(=①-③)	△ 3,569,225	
次年度繰越金…④(=②-③)	3,723,313	
合計(③+④=②)	7,393,538	(単位:円)

会計報告追記

学会長 鈴木 崇彦

平成 23 年度特別会計の支出について、機関誌「組織培養研究・TCRC」のバックナンバー登録費として 236 万円強の計上を行っていますが、これは、J-Stage へのバックナンバーのアップロード登録の申請が審査に通らなかった場合の支出予定であります。幹事会での議論の結果、バックナンバー雑誌の保管経費を削減することと、バックナンバーの散逸を防ぎ、会員の皆さんが利用可能な形にするのが会員サービスにもなるといふことで、念のため予算計上を行っております。しかし、金額が大きく、今後の機関誌の発行についてはさらに議論する必要があることから、支出に当たっては慎重に行われなければならないと考えています。

3) 審議事項(抜粋)

1. 評議員推薦

下記の先生の評議員への推薦を幹事会にて承認した。

竹澤 俊明先生(独立行政法人 農業生物資源研究所 動物科学研究領域 動物生体防御研究ユニット 上級研究員)

2. 次期執行役員の選出

学会細則 第3章 執行役員の選出 に従い、鈴木会長指名により、下記2名の幹事に選挙管理委員を委

託する。選挙の具体的スケジュールは会長および選挙管理委員で後日決定。来年度第85回大会総会にて選挙結果を報告する。

選挙管理委員：小原 有弘 幹事、坂野 俊宏 幹事

(投票用紙は小原 幹事(独立行政法人 医薬基盤研究所)宛に送付してもらい、同所にて開票)

3. 機関誌の保管料低減に関する提案

保管料だけで毎年 10 万円の支出を伴っている機関紙「組織培養研究」TCRC (Tissue Culture Research Communications)のバックナンバーについて、幹事が分担して紙面を電子化し、J-STAGE [科学技術情報発信・流通総合システム]にアップロード(データ転送)することが、間中 研一 幹事より審議事項として提出された。審議の結果、特別会計から230万円を支出し、紙面の電子化とアップロードのすべての作業を外注することに決定した。

4. 細胞培養士養成コースについて

教育研究システム委員会 古江 委員長より、細胞培養士養成コースについての審議事項が提出された。決定事項については後掲の「教育研究システム委員会報告」を参照。

本件に関連して、学会会則および細則を変更。細胞培養士資格認定規約については、別途メーリングリストによる幹事会などにて承認予定。

4) 第85回大会概要

大会長：浅香 勲 (京都大学 iPS 細胞研究所)

会期：5月17日(木)、18日(金)

会場：京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール

特別講演：山中伸弥(京都大学 iPS 細胞研究所長)

シンポジウム：実現化目前の幹細胞治療と培養技術(仮)

コーディネーター：中村幸夫(理研 BRC 細胞材料開発室室長)

シンポジスト：高橋政代(理研発生再生科学総合研究センター 網膜再生医療研究チームチームリーダー)他

その他：一般講演、若手奨励賞、総会等

3. 各種委員会報告

1) 教育研究システム委員会報告

細胞培養基盤技術コース III トライアルの開催ご報告とコース全体案について

教育研究システム委員会 古江-楠田美保

国立成育医療センターにて開催された第 84 回日本組織培養学会大会において、平成 23 年 5 月 28 日午前中に、大会長・絵野沢 伸先生のご協力のもと、第 3 回培養指導士講習会・細胞培養基盤技術講習会コース III トライアルを下記プログラムで開催いたしました。

(1) 細胞培養基盤技術講習会コース III トライアル

1. 細胞の検索方法とデータシートの読み方について

上田 忠佳 (DS ファーマバイオメディカル株式会社 研究開発本部 研究第二グループ)

2. 株化細胞の増殖曲線の作成方法

浅香 勲 (京都大学 iPS 細胞研究所 規制科学部門)

3. 研究の進め方と細胞を扱うときの倫理問題

絵野沢 伸 (国立成育医療研究センター)

細胞培養基盤技術コースⅢの概要は、「培養細胞を扱う上での基本的知識を持ち、自立して細胞を扱うことができる培養学会員を細胞培養士として学会が認定する。」ことを目標としました。座学を受講したのち、レポート提出、試験を行った後に、認定をすることを検討しております。試験問題作成、採点、細胞培養士認定は、細胞培養士認定委員会が担当することを、幹事会で承認されました。詳細が決まりましたら、ホームページに掲載する予定です。

また、現在、改めてコース全体の学習目標などを、幹事ならびに指導者の方々と見直しております。検討が終了しだい、ホームページに掲載する予定です。

(2) 細胞培養指導士認定資格

細胞培養指導士認定資格については、下記のように当委員会から提案を行い、幹事会にて承認いただきました。

細胞培養指導士Ⅰ級 認定資格

総会にて開催する細胞培養指導者講習会3年に1回参加し、細胞培養基盤技術コースにおいて指導者とともに実習指導を3回以上経験し、本実習の意義を理解して細胞培養士育成に貢献したいと希望する培養学会員。

細胞培養指導士Ⅱ級 認定資格

総会にて開催する細胞培養指導者講習会に3年に1度以上参加し、細胞培養基盤技術コースにおいて指導者とともに実習指導を3回以上経験し、本実習の意義を理解して細胞培養士育成に貢献したいと希望する培養学会員。

細胞培養指導士Ⅲ級 認定資格

細胞培養指導士Ⅲ級 認定資格については、現在、調整中です。

細胞培養基盤技術コース開催については、大会におきまして細胞培養指導者講習会を受講される際にメールアドレスを頂いている方々にはメールを流して、ご協力をお願いいたします。また、ホームページにも掲載を行いますので、ご協力いただけます会員の方は、教育研究システム委員会・古江(mkfurue@nibio.go.jp)までご連絡ください。

(3) 開催地認定

また、開催地についても、これまで本拠地を決めて開催を行っておりましたが、指導者・受講者が増加傾向にあり、開催地の施設認定をすることになりました。施設がコース開催に必要な備品が整備されており、インストラクターを4回以上経験したことがあるインストラクター2名以上が参加して、開催することとします。申請書を教育研究システム委員会に提出、検討、幹事会へ推薦、幹事会認定を行い、2回目以降の開催は、開催する旨を事前に教育研究システム委員会に提出、認定といたします。

(4) 教育研究システム委員会の今後の活動内容

培養士認定委員会の設置されることから、教育研究システム委員会の担当は、下記を考えております。

1. 実習書の作製、改変の検討、認定。
2. 開催地の認定
3. 培養指導士の認定
4. 細胞培養基盤技術コースの協賛企業の発掘

多くの会員の皆様方のご協力により、ようやく全体像が見えてまいりました。できるだけ早く、この培養士認定の制度が整備され、会員の皆様のみならず、社会に貢献できることを願っております。

今後とも教育研究システム委員会へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

2)テクニカルアーカイブ委員会報告

テクニカルアーカイブ委員会 浅香 勲

本委員会では昨年度、委員会内規および収集アーカイブの使用許諾書類等の原案を提示し、メール会議に諮りました。今後各委員の意見を集約し、内規等を完成する予定です。

また、アーカイブ収集活動の一環として、国立成育医療研究センター臨床研究センター先端医療開発室の絵野沢会員の協力を得、豚肝臓からの初代肝細胞分離操作のビデオ撮影を実施しました。今後は当該ビデオを編集し、本学会のアーカイブとして掲載する予定です。

3)情報企画委員会報告

情報企画委員会 坂野 俊宏

当委員会では、学会ホームページ、メーリングサービスによる情報の提供／配信について、これまで同様、その維持メンテナンスを間中 研一 先生(獨協医科大学)に行なっていただいております。

今後は、これら学会ホームページや種々の情報ツールを、当学会幹事の諸先生方に直接ご活用いただけるよう、よりユーザーフレンドリーなシステムへと変更できないか、また、これらシステムの維持メンテナンスの労力を少しでも減らすことはできないか、山本 直樹 先生(藤田保健衛生大学)を中心としてご検討いただいております。

当学会および各種委員会の様々な活動により一層有効にご活用いただけるようになればと思います。

引き続きまして、当委員会の活動や学会ホームページに関して、皆さまのご意見・ご要望、ご提案などございましたらお寄せいただければ幸いです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【編集後記】

未曾有の大震災直後は開催を案じた第84回大会でしたが、いつも以上の盛況ぶり充実ぶりを目の当たりにし、日本の科学者、技術者をあらためて心強く感じた次第です。被災された方々が以前の生活や研究の環境を早く取り戻されて、またさらにそれまで以上のご発展を遂げられますことを願ってやみません(ts)

この度の大震災は東北地方太平洋岸の姿、生活を瞬時に変化させてしまいました。月並みではありますが自然とはまだまだ人知の及ぶものではないことを思い知らされたとともに、可能な限り人知を高める必要をも感じました。被災した一人として思いを新たに参加させていただいた84回大会でした(ti)